

「真夜中のアカペラ・コンサート(賛美集会)」

使徒の働き 16章25-34節

1

真夜中ごろ、パウロとシラスは祈りつつ、神を賛美する歌を歌っていた。ほかの囚人たちはそれに聞き入っていた。すると突然、大きな地震が起こり、牢獄の土台が揺れ動き、たちまち扉が全部開いて、すべての囚人の鎖が外れてしまった。目を覚ました看守は、牢の扉が開いているのを見て、囚人たちが逃げってしまったものと思い、剣を抜いて自殺しようとした。パウロは大声で「自害してはいけない。私たちはみなここにいる」と叫んだ。看守は明かりを求めてから、牢の中に駆け込み、震えながらパウロとシラスの前にひれ伏した。使徒16:25-29

2

そして二人を外に連れ出して、「先生方。救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った。二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」そして、彼と彼の家にいる者全員に、主のことばを語った。看守はその夜、時を移さず二人を引き取り、打ち傷を洗った。そして、彼とその家の者全員が、すぐにバプテスマを受けた。それから二人を家に案内して、食事のもてなしをし、神を信じたことを全家族とともに心から喜んだ。
使徒16:30-34

3

困難を神といっしょに

- 従順と困難？信仰と苦しみ？
- 神に従ったのに牢屋？良いことをしたのに？
- 二人はこの町で福音を宣べ伝え、多くの人々を弟子としてから、弟弟子たちの心を強め、信仰にしっかりとどまるように勧めて、「私たちは、**神の国に入るために、多くの苦しみを経なければならぬ**」と語った。使徒14:21-22
- **世にあっては苦難があります**。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。
ヨハネ16:1-4, 33

4

真夜中のアカペラ・コンサート

- この世の困難をどのように乗り越える？
- 「見よ。わたしは世の終わりまで、**いつもあなたがたとともにいます**。」(マタイ28:20)と約束してくださった方といっしょに！
- **真夜中ごろ、パウロとシラスは祈りつつ、神を賛美する歌を歌っていた**。ほかの囚人たちはそれに聞き入っていた。使徒16:25

5

真夜中のアカペラ・コンサート

- 何も思い煩わないで、**あらゆる場合に、感謝をもつてささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい**。そうすれば**すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます**。ヒリビ4:6-7
- あなたがたが私から学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことを行いなさい。そうすれば、**平和の神があなたがたとともにいてくださいます**。ヒリビ4:9、聖歌604望みも消えゆくまでに

6

教会の歴史とアカペラ

- 初代教会においては、音楽はもっぱら声楽に限られ、礼拝に楽器を用いることは禁じられていた。現在もなお、東方教会においては、この習慣が守られている。」(キリスト教大辞典、教文館、p. 748)
- 1475年に建立されたシステーナ礼拝堂(教皇の住むバチカン宮殿内)では今日でもオルガンを含む一切の楽器を持ち込まないという伝統が厳格に守られている。
- カトリック教会において最も神聖な礼拝は今日でも無楽器で(アカペラ)で行われている。
- アカペラという言葉の意味は「礼拝堂で、in chapel」とか「教会風に」という意味である。

7

教会の歴史とアカペラ

- 宗教改革以後、プロテスタントの諸教会は、オルガンは、ローマ法王がその權威によって勝手に付け加えたものであるとして、拒絶した。
- ジョン・カルヴァン(1509-64)「神を賛美する儀式で楽器を使うことは、香をたいたり、といった律法の影のよくなものを復活させることよりもふさわしくない。」
- メソジスト教会の創始者のジョン・ウエスレー(1703-91)、「見えたり、聞こえたりしなければ、礼拝堂にオルガンがあるのに反対ではない。」(皮肉)
- バプテスト教会で最も有名な説教者スボルジョン(1834-92)は、「それではどうすればよいのでしょうか。私は霊で祈り、知性でも祈りましょう。霊で賛美し、知性でも賛美しましょう。」という聖句(コリント14:15)を引用して、「機械で賛美しましょうか?」(皮肉)

8

真夜中のアカペラ・コンサート

- 変わった教会ですね? 変わっていない教会。
- 賛美は神に対するお世辞やごますりではない
- 神の現実をそのまま言い表したもの。神の現実を示し、神がどういうお方で、自分たちがどういう者であるかを教えてくれる。(信仰)
- 詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい。

Ⅰペ5:19

9

真夜中のアカペラ・コンサート

- すべての人が牢に入っている。悪魔の牢。悪魔のろう!
- 悪魔の牢は、考え方、教育、この世のシステム、
- 私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。また、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことも、知っています。私たちは真実な方のうちに、その御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。子どもたち、偶像から自分を守りなさい。 13ハネ5:19-21
- 讚美歌112 諸人こぞりて2番 悪魔の人屋(ひとや)を打ち砕きて、捕虜(とりこ)をはなつと主は来ませり、主は来ませり、主は、主は来ませり。

10

危機が機会に

- ローマの支配から、悪魔の支配から神の支配(神の国)へ
- 隣人(国)が自分たちより弱かったら征服せよという考え、欲主導の考え、システム。隣人を自分と同じように愛せよ(愛主導)。侵略行為、いじめ?
- 悪魔は、経済(お金)、宗教、欲望を利用して人間を操り(誘惑し)、神から離そうとする。
- 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。 13ハネ3:8 (真実な方を知る理解力)

11

真夜中の賛美集会

- 私たちは、神の弟子、世の光
- 私たちの生活はライブ・コンサート(一致、協力)
- 一人一人が(神の)教会の「看板娘」「看板」
- 私たちの生活(言動)の賛美化、福音化
- 詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい。いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。 Ⅰペ5:19-20

12